

**3**  
Rd.

**JUN 2011**

# **RACING PRESS**

*apan*

**2011 AUTOBACS SUPER GT ROUND 3  
SUPER GT INTERNATIONAL Series MALAYSIA**



# 2011 SUPER GT ROUND 3 SEPANG



Text

島村元子

Photo

加藤智充

中村佳史

Editor

吉川絹恵

**2011 AUTOBACS SUPER GT ROUND 3**  
**SUPER GT INTERNATIONAL Series MALAYSIA**  
**6/18-19**



# 南国マレーシア戦はホンダHSVチャンピオン車が圧勝!



スーパーGT唯一の海外戦は南国マレーシアで開催された。舞台はF1も行われているセパン国際サーキット。GT-R 2連勝で始まったこのシリーズはセパンを得意とする24号車GT-Rが三度、チャンスをものにすることが注目を集めた。予選では11年型HSVは小暮に託されたが、1.2戦の流れを変えるアタックを見せ見事にポールポジションを獲得した。2番手には46号車のGT-Rがつけた。



# 今季、待望の初勝利はポールトゥウウィン!

[結果]

優勝	1	ウイダーHSV-010	小暮卓史	ロイック・デュバル
2位	46	S Road MOLA GT-R	柳田真孝	ロニー・クインタレッリ
3位	17	KEIHIN HSV-010	金石年弘	塚越広大
4位	24	ADVAN KONDO GT-R	安田裕信	ビヨン・ビルドハイム
5位	38	ZENT CERUMO SC430	立川祐路	平手晃平
6位	36	PETORONAS TOMS SC430	アンドレ・ロッセラー	中嶋一貴



## GT500

6月18・19日、マレーシア・セバン国際サーキットにおいて行われたSUPER GT第3戦。土曜日まではうす曇が先行するセバンらしくない天気だったが、日曜日は恒例の蒸し暑く強い日差しが戻ってきた。日曜の朝は、灼熱の太陽の下でフリー走行を実施。午後4時からの決勝を前にややうす曇となり、46週のレースが始まった。ここでもポールスタートの1号車は小暮が他車を圧倒。まるで開幕戦以来、納得のいく戦いができずにいたフラストレーションを払拭するかのような走りだった。46号車のクインタレッリも追隨するが、差は開くばかり。ドライバー交代後も様相に変化はなく、結局1号車の独壇場に。HSV-010が待望の今季初勝利を飾った。2位の46号車に続いたのは、No.17 KEIHIN HSV-010(金石年弘/塚越広大組)だった。



# GT-R 3連勝はストップ、終盤のトラブルで惜しくも2位。



2nd



3rd





# 初音ミク・グッドスマイルBMWが初優勝!

GT300は、トップの4号車BMWが終盤になってペースダウン。  
2位のNo.11 JIMGAINER DIXCEL DUNLOP 458(田中哲也/平中克幸組)が怒涛の追い上げを見せたが、惜しくもそこまで。4号車が初優勝を果たし、11号車は3戦連続の2位に。  
3位にはNo.27 PACIFIC NAC イカ娘 フェラーリ(山岸大/山内英輝組)が入った。



## GT300

### 【結果】

優勝	4	初音ミク グッドスマイルBMW	谷口信輝	番場 琢
2位	11	JIMGAINER DEXCEL DUNLOP 458	田中哲也	平中克幸
3位	27	PACIFIC NAC イカ娘 フェラーリ	山岸 大	山内英輝
4位	88	JLOC ランボルギーニ RG-3	井入宏之	関口雄飛
5位	43	ARTA Garaiya	高木真一	松浦孝亮
6位	74	COROLLA Axio apr	新田守男	国本雄資



# THE FACE CLOSE-UP

*Benoit*  
**TRELUYER**  
ブノワ・トレルイエ

Text by M. Shimamura

Photo: Tomomitsu Kato



6月12日午後4時、フランスのサルテサーキットで行われた伝統ある耐久レース、ル・マン24時間が長きにわたる戦いが終わり、チェッカーフラッグが振り落された。トップでコースを通過したのは、No.2 Audi R15 TDIをドライブしたアンドレ・ロッター。日本のレースでも活躍する彼とともにこの2号車を巧みに操ったもう一人のドライバーがいる。その名は、ブノワ・トレルイエ。ル・マンからほど近い街に生まれ育ち、いつかは母国の偉大なイベントで優勝を、と誓った男は、ビッグで価値ある勝利をついに手にした。

ヨーロッパでのレース参戦に見切りをつけ、日本という見知らぬ国へと降り立ったのが2000年。翌年には全日本F3王者となり、2002年にはフォーミュラ・ニッポンへとステップアップ。経歴だけを見ればいかにも順風満帆という感じではあるが、当時はアグレッシブな走りゆえクラッシュも多く、途中降板という窮地に陥ったこともあった。だが2003年、元祖「日本一速い男」といわれる星野一義監督率いるTEAM IMPULに加入するや、それまで燻っていた才能が一気に開花! チャンピオン獲得は2006年までお預けとなったが、その間にクレバーなレースマネジメントをも身につけ、真のトップドライバーへと成長を果たしたのだ。

一方、SUPER GTは2001年にデビュー。このシーズンのみホンダのマシンを駆ったが、翌年には

IMPULからカルソニックスカイラインでデビューし、以来日産ひと筋。NISMOに移籍した2008年に、シリーズタイトルを獲得している。

アウディからル・マン24Hをはじめとする耐久レースに参戦を始めたのは昨シーズン。彼自身が「日本のSUPER GTを通じて僕は周回遅れの抜き方を学んだんだよ」と断言するように、実力を遺憾なく発揮したル・マン24時間では昨年総合2位に入り、ついに今年はポールポジション獲得の上に総合優勝を実現! 最後まで続いたブジョーとの激戦を制し、表彰台で涙したトレルイエ。日本のモータースポーツ界で進化を遂げた彼は、育ての親ともいえる星野監督を心から尊敬する。今シーズンのSUPER GTでは、富士戦で2年ぶりの優勝を果たし、第3戦を終えて現在、ランキングトップ。今年はこの勢いで、好敵手・HSV-010と真に向勝負に挑む。

【ドライバープロフィール】

1976年12月7日、フランス生まれ。レースデビューは83年、4輪ではなくモトクロスだった。90年にレーシングカートに転向、95年にルノー・エルフ・キャンパストロフィーに参加し、フランスF3を経て2000年に来日。現在はフランス在住。

